

助け合い、支え合う社会

予見的支援

伴走的支援

修復的支援

対人支援における大学と 社会実践の連携

これまでとこれから

立命館大学人間科学研究所年次総会・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」プロジェクト成果報告会

人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」プロジェクトでは、研究と現場での実践が深く結びついた活動、つまり〈学＝実〉を連携させた活動を広げることで、さまざまな人々が活躍できる

社会の実現に向けた足場づくりを目指してきました。プロジェクト3年目を迎える今回は、これまでの取り組みを振り返り、これからの「インクルーシブ社会」の在り方について話し合いたいと考えています。どうぞお越しください。

日時

2015年**11月21日**(土)
9:30 - 17:15 (9:00開場・出入り自由)

場所

立命館大学衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム

※駐車スペースがございませんので、公共交通機関をご利用の上ご来場ください。

参加無料・要事前申込

お申込み締切 **2015年11月11日(水)**

お申込みは、下記URL「お申込みフォーム」からお送りください。メールまたはFAXをご希望の方は、件名を「年次総会予約」とし、①氏名 ②ご所属 ③ご連絡先(E-Mail又は電話番号) ④参加企画(裏面参照) ⑤特別配慮等(情報保障・託児サービス等)ご希望の方はその旨をご記入の上お送りください。当日のご参加は可能ですが、席数や当日資料には限りがございますので予めご了承ください。



■お申込みフォーム

<http://www.ritsumeihuman.com/news/read/id/147>

■Email ningen@st.ritsume.ac.jp ■FAX 075-465-8245

【主催】 立命館大学人間科学研究所

【共催】 立命館大学生存学研究センター

立命館大学特定領域型R-GIRO研究プログラム「電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究」

立命館大学拠点形成型R-GIRO研究プログラム「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点」

対人支援における大学と 社会実践の連携

これまでとこれから

総合司会

安田 裕子 (立命館大学文学部准教授)

若林 宏輔 (立命館大学文学部准教授)

第1部

予見的支援チーム企画

大学という資源を活用した 高齢者支援の取り組み —活動のまとめ—

9:50 ~ 10:50

進行・報告1: 土田 宣明 (立命館大学文学部教授)

学術的な観点から —認知機能の変化—

報告2: 高橋 伸子・石川 眞理子 (立命館大学人間科学研究所客員研究員)

実践的な観点から1 —大学という場で—

報告3: 長井 徹夫 (京都市左京区地域介護予防推進センター センター長)

実践的な観点から2 —学外での取り組み—

企画趣旨

プロジェクト全体の目的の一つには、対人支援の分野で大学という資源を活用するとともに、地域で様々な現実課題に関わる実践家・実務家との協働を追求することがありました。この趣旨にかかわって、今回は京都市左京区地域介護予防推進センターで高齢者の各種介護予防事業に当たられてきた長井

徹夫氏を迎え、予見的支援チームが特に高齢者支援の分野で行ってきた研究・実践を、研究者・実務家の両方の観点から、また大学内/学外での活動という両面から検証します。何を実践し、どの程度達成されたのか、残った課題は何か、今後の方向性はどうあるべきか、合わせて4名が登壇して考えます。

登壇者紹介

長井 徹夫

京都市左京区地域介護予防推進センター センター長

京都市役所勤務を経て、2011年4月より現職。要支援・要介護状態となるおそれのある高齢者及びその他の高齢者に対し各種介護予防事業を提供する同センターにて、一次予防事業(知識の普及啓発)・二次予防事業(運動機能向上プログラム・栄養改善プログラム・口腔機能向上プログラムなどの教室)を推進してきた経験を持つ。予見的支援チームが同センター管轄の介護老人福祉施設「市原寮」で学習療法(音読・計算)を実践してきた関係から、本プロジェクトへの助言もいただいている。

高橋 伸子・石川 眞理子

立命館大学人間科学研究所 客員研究員

2006年より立命館大学人間科学研究所の客員研究員となり、本学で地域高齢者を対象とした認知リハビリテーション活動の運営の中核として携わる。両人とも立命館大学大学院応用人間科学研究科の修士でもあり、高齢者支援に関わる研究発表の業績も多数。

第2部

ポスターセッション

11:00 ~ 12:45

「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」プロジェクトをはじめ、人間科学研究所に参加する研究者の研究成果や研究進捗について、自由観覧形式のポスターセッションを実施します。会場には軽食とお飲み物をご用意しております。発表者が常駐するコアタイムも設けますので、サンド

ウィッチなどをつまみながら、発表者と自由に議論や意見交換を行っていただけます。当日配布のプログラムには抄録集を収録しておりますので、それを片手にぜひご参加ください。

なお、発表者・演題・抄録一覧は研究所HPにて掲載いたします。下記URLよりご覧ください。

【人間科学研究所HP】 <http://www.ritsumeihuman.com/news/read/id/147>

第3部

伴走的支援チーム企画

伴走的支援研究と〈学＝実〉連環

13:00～14:00

報告：谷 晋二（立命館大学文学部教授）

企画趣旨

本プロジェクトでは、インクルーシブ社会を実現するために、様々な立場の人々に対してどのような支援が有効かを検討してきました。伴走的支援チームでは、困難を抱える人への直接的な支援の方法を開発する「直接支援」の研究、困難を抱える

人を支援する人を支援する「支援者支援」の研究、支援を持続、継続していくための方法「情報移行」に関する研究など、様々な場面で実務家と協働しています。今回は、その多種多様な研究活動を「〈学＝実〉連環」の視点からまとめて報告します。

第4部

修復的支援チーム企画

修復の課題の現在—罪と罰とは何かについて、社会復帰の現場から考える

14:15～15:15

対談：山田 真紀子（大阪府地域生活定着支援センター相談員） × 中村 正（立命館大学産業社会学部教授）

企画趣旨

おにぎり2個を盗んで懲役7ヶ月となった障がいのある方がいた。また別に、発達障害のある加害者にたいして社会資源が十分ではないので求刑以上の刑を科した裁判官がいた。これらと前後して刑務所が福祉施設になっていると警鐘をならした元政治家は『獄窓記』を著して、本来何をなすべきかと問うた。罪の背景にあることは何か、罰はどのようにあるべきなのか、更生の方策はどこにあるのか、社会が罪人をつくりだしているとする社会は自らを防衛するという統治の課題以外に社会復帰という支援のための方策をもつべきでないのか、暴力や逸脱を生き方の一部にまでしているひとたちへの更生保護はどのようにして可能なのか。

そもそも現在の刑務所は何をしているのか、少年院はどのように機能しているのか等について知りたいことはたくさんある。その隘路をぬって新しい取り組みがはじまった。犯罪者の社会復帰のために全国的に組織された地域生活定着支援センターである。その考え方と実際についての事例をたくさん話してもらいながら更生保護、修復的正義、治療的司法などの新しい課題について検討をくわえたい。なかでも地域の「よりそいネット」を組織しながら活動をする大阪のセンターは先駆的な取り組みだと評価が高い。それらのことから学びたい。

登壇者紹介

山田 真紀子

大阪府地域生活定着支援センター相談員

犯罪をした認知症高齢者が刑事手続きに乗せられることに疑問を抱き、司法福祉に興味を持つ。これまで、地域包括支援センター、加古川刑務所、大阪府高齢介護室介護支援課での勤務を通して、高齢者支援

ネットワークづくりや、高齢者虐待の養護者に焦点を置いた事例検討会の開催、最近では触法障害者や高齢犯罪者の社会復帰のための支援の事例検討会などを試みている。

第5部

全体企画

対人支援における大学と社会実践の連携 —過去・現在・未来—

15:30～17:00

司 会：サトウ タツヤ（立命館大学文学部教授）

登壇者：松原 洋子（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授／人間科学研究所所長）、土田 宣明（立命館大学文学部教授）、谷 晋二（立命館大学文学部教授）、中村 正（立命館大学産業社会学部教授）、小泉 義之（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授）、稲葉 光行（立命館大学政策科学部教授）

企画趣旨

「インクルーシブ社会にむけた支援の〈学＝実〉連環型研究」プロジェクトは、15年に渡る人間科学研究所の研究活動の蓄積の上に成り立っています。第5部では、まず当研究所での対人支援における〈学＝実〉連携の「これまで」を振り返ります。

そして、当プロジェクト内の各チームリーダーにより、改めて「現状」を総括し、フロアの皆さんと共に「未来」を展望します。3年間に渡る本プロジェクトの総括です。

■ プログラム

	総司会	安田 裕子（立命館大学文学部准教授）・若林 宏輔（立命館大学文学部准教授）
9:30～9:50	開会挨拶	渡辺 公三（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授/立命館大学副学長） 松原 洋子（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授/人間科学研究所所長）
9:50～10:50	第1部	大学という資源を活用した高齢者支援の取り組み ―活動のまとめ― 予見的支援
	進行・報告1: 土田 宣明（立命館大学文学部教授） 学術的な観点から ―認知機能の変化― 報告2: 高橋 伸子・石川 眞理子（立命館大学人間科学研究所客員研究員） 実践的な観点から1 ―大学という場で― 報告3: 長井 徹夫（京都市左京区地域介護予防推進センター センター長） 実践的な観点から2 ―学外での取り組み―	
10:50～11:00	休憩	
11:00～12:45	第2部	ポスターセッション
	※軽食をご用意しております。	伴走的支援
13:00～14:00	第3部	伴走的支援研究と〈学＝実〉連環
	報告: 谷 晋二（立命館大学文学部教授）	
14:00～14:15	休憩	
14:15～15:15	第4部	修復の課題の現在―罪と罰とは何かについて、社会復帰の現場から考える
	対談: 山田 真紀子（大阪府地域生活定着支援センター相談員）×中村 正（立命館大学産業社会学部教授）	修復的支援
15:15～15:30	休憩	
15:30～17:00	第5部	対人支援における大学と社会実践の連携 ―過去・現在・未来―
	司 会: サトウ タツヤ（立命館大学文学部教授） 登壇者: 松原 洋子（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授/人間科学研究所所長）、土田 宣明（立命館大学文学部教授）、 谷 晋二（立命館大学文学部教授）、中村 正（立命館大学産業社会学部教授）、小泉 義之（立命館大学大学院先端総合学術研究科教授）、 稲葉 光行（立命館大学政策科学部教授）	全体企画
17:15	閉 会	稲葉 光行（立命館大学政策科学部教授）

アクセス



立命館大学 衣笠キャンパス 創思館 (1階カンファレンスルーム)

- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・205
- JR 円町駅より 市バス15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス55
- 地下鉄 二条駅より 市バス15・55
- 京阪電車 三条駅より 市バス15・59
- 京福電鉄 等持院より 徒歩6分
- 市バス15・50・55・59にて「立命館大学前」下車/徒歩5分
- 市バス204・205にて「衣笠駅前」下車/徒歩10分 東門



お問合せ先

立命館大学人間科学研究所事務局

TEL 075-465-8358 FAX 075-465-8245 E-mail ningen@st.ritsumei.ac.jp

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 HP: <http://www.ritsumeihuman.com>